

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールA(Seminar of Study A)	授業コード	C172419
担当教員名	本多 恒雄、大江 克利		
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	就職に関連する内容ですので、3年生は全員履修するようにして下さい。		
受講心得	進路、人間力、卒業研究内容等を念頭に置き受講することが望まれます。		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	各教職員からの指定図書等		
関連科目	研究ゼミナールB、航空工学演習3、卒業研究		

授業の目的	本科目は就職に関連する一般的な知識や教養について学習し、同時に基礎学力向上を目指します。
授業の概要	研究ゼミナールAでは、社会人として一歩を踏み出す上で必要な一般的な知識や教養レベルを上げるために、講義毎に一コマの場面を例にとりてその中から必要な社会的常識を習得します。また、実際に就職試験で必要とする一般教養、国語、英語等の基礎学力の向上を得るために、課題の訓練を行います。また、現在企業で活躍する方から直接その企業環境や企業の考え方等について講演をお願いする予定です。 なお研究ゼミナールBでは卒業研究に向けた準備を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：講義の進め方</b> 講義の進め方と詳細スケジュールについて説明します。また、航空宇宙産業の現状についての解説及びこれまでに本学科の学生が就職した主な企業紹介を行います。	
<b>第2週：特別講義(1)</b> 航空関連設計業界の企業から講師を招いて、企業環境、企業の考え方、就職環境、等について具体的に話をしてもらいます。	
<b>第3週：就職講座(教養編)(1)</b> (1)社会常識について解説(教養と人間力、四面楚歌の語源) (2)教養編その1問題の実施と回答解説(国語)	
<b>第4週：就職講座(教養編)(2)</b> (1)社会常識について解説(姿勢の話) (2)教養編その2問題の実施と回答解説	
<b>第5週：特別講義(2)</b> 航空関連製造業界の企業から講師を招いて、企業環境、企業の考え方、就職環境、等について具体的に話をしてもらいます。	
<b>第6週：就職講座(教養編)(3)</b> (1)社会常識について解説(新聞の見方:上級編) (2)教養編その3問題の実施と回答解説	
<b>第7週：就職講座(教養編)(4)</b> (1)社会常識について解説(ポートフォリオの話) (2)教養編その4問題の実施と回答解説	
<b>第8週：特別講義(3)</b> 航空運航業界の企業から講師を招いて、企業環境、企業の考え方、就職環境、等について具体的に話をしてもらいます。	
<b>第9週：就職講座(教養編)(5)</b> (1)社会常識について解説(マナー豆知識) (2)教養編その5問題の実施と回答解説	
<b>第10週：就職講座(教養編)(6)</b>	

(1)「派遣業とは」をテーマに講義 (2)質問等の解説		
<b>第11週：特別講義(4)</b> 派遣業界の企業から講師を招いて、企業環境、企業の考え方、就職環境、等について具体的に話をしてもらいます。		
<b>第12週：就職講座(教養編)(7)</b> (1)過去10年間の航空宇宙工学科の就職状況と就職先企業紹介及びそこから見てくる次年度予測について解説します。		
<b>第13週：就職講座(教養編)(8)</b> (1)大学研究の最新情報と問題意識の重要性について (2)教養編その6問題の実施と回答解説		
<b>第14週：特別講義(5)</b> 航空運輸業界の企業から講師を招いて、企業環境、企業の考え方、就職環境、等について具体的に話をしてもらいます。		
<b>第15週：就職講座(教養編)(9)</b> (1)社会常識について解説(気になる新人の言動) (2)夢を持つことの大切さ、夏休みの過ごし方 (3)教養編その7問題の実施と回答解説		
<b>第16週：基礎学力確認試験</b> これまでで学修した一般教養の問題の中から抽出して基礎学力の確認試験を実施する。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考	一般基礎知識のレベルアップを図る。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	就職のための航空宇宙業界の方が話す内容を理解することができる。
<b>【知識・理解】</b>	就職のための一般基礎知識について、答えることができる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	特別講義のレポート作成、教養問題の回答作成等から自分のレベルについて、客観的に表現することができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	特別講義、教養基礎学力試験を通して、自分の進むべき方向付けをすることができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	5点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点	10点	5点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	5点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		10点	5点	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	特別講義のレポート期限内作成、教養基礎問題の回答、正答率等を成績に反映します。
発表・その他 (無形成果)	一般基礎教養試験についての質問を行い、その回答内容等で、理解度を判断します。